



2024年6月12日

各位

上場会社名 株式会社 Lib Work
代表者名 代表取締役社長 瀬口 力
(コード番号: 1431 東証グロース・福証 Q-Board)
問合せ先責任者 執行役員経営企画室長 難家嘉之
(TEL. 0968-44-3559)

【月706万円の労務費削減に成功】株式会社 ANDPAD が主催する「ANDPAD 大賞」DX カンパニー部門にて大賞受賞

当社は、このたび株式会社 ANDPAD が主催する「ANDPAD 大賞」DX カンパニー部門におきまして、大賞およびユーザー投票における ONE を受賞しましたのでお知らせいたします。

1. ANDPAD 導入における成果

クラウド型建設プロジェクト管理サービス「ANDPAD」を運営する株式会社アンドパッドが開催している「ANDPAD AWARD 2023」。ANDPAD の活用を通して DX の推進を行う先進的な企業や、ANDPAD 利用度の高い企業に向けて表彰しています。今回当社が受賞したのは、「DX カンパニー部門」大賞およびユーザー投票における ONE 賞。ANDPAD 利用起業 18.7 万社の中から選出されました。ANDPAD 導入に伴い、以下のような成果をあげることに成功いたしました。





①時間・コストの削減

成果1. 時間／コストの削減、業務改善の時間を創出



施工管理業務において、ANDPAD を通して業務を一元化・再現可能にすることで、1 か月で 706 万円のコスト削減に成功。また施工管理業務に携わる建築部において、前年比 82.9%の残業時間削減を達成しました。

②協力会社の業務を改善

全業者の工程を「見える化」することで経験によらない業務水準を担保。協力会社側に強いていた無理・無駄な工程をなくし、業務改善を行いました。

③お客様の満足度向上につながる

ANDPAD 導入を通してお客様対応に対応できる時間が増加し、Google ビジネスプロフィールの高評価口コミ数が約 2 倍に。クレーム数も大幅に減少し、従業員の業務改善がお客様の満足度向上にもつながりました。

2. ANDPAD 導入に至った背景

当社の主幹である注文住宅事業は、受注を獲得する営業から、間取り・外観を決める設計、品質管理を行う工事管理や原価計算を担うコスト管理など、多くの工程が存在しています。このような住宅を建てるまでの工程は、企業規模の拡大とともに「コーディネーター課」「工程コスト管理課」「工事管理課」というように、課を分けて分業化されていきました。

施工管理業務を分業化する中で生まれた課題は、「情報の管理形態がバラバラであったこと」。全員で同じ情報を共有するためには複数システムへの多重入力が必要となり、ひいては手入力によるミスが発生を引き起こすことになりました。さらに受発注については紙ベースの資料で業務が行われることで、手間と時間がかかっていました。

このような経緯を経て、当社は 2022 年 2 月に ANDPAD 導入を決意。ANDPAD 導入に向けての準備を進めていきました。

3. ANDPAD 導入に向けた当社の取り組み

「システムで今の業務を再現するのではなく、業務をシステムに合わせる」という方針のもと、以下 3 つの取り組みを行いました。

① 「ANDPAD 推進委員会」の立ち上げ

取り組み1. 「ANDPAD推進委員会」の立ち上げ

全社的に同じ目標を持ち、ANDPAD推進を進めるために

全組織協調型のBPRプロジェクト

ビジネスプロセス・リエンジニアリング

として取り組みを開始（2022.2～）

反対者の意見を聞き、全員で納得して進められるようにするため

過去のシステムでできなかったことや課題を、どう仕組みで改善するか、関係する全員で考え実行するため



ANDPAD推進委員会の構成メンバー

営業、設計、コーディネーター課、工事管理課
工程コスト管理課、管理部経理財務課の決定権者 etc.



2022 年 2 月、全組織協調型の BPR（ビジネスプロセス・リエンジニアリング）プロジェクトとして取り組みを開始。営業部・設計課・コーディネーター課・工事管理課など多くの課におけるメンバーが集まり、ANDPAD 推進委員会を立ち上げました。各部署における約 50 種類の帳簿をいかに整理するか話し合いを重ねました。

②協力会社の巻き込み



自社だけでなく協力会社にも ANDPAD を使っていただく必要があったため、PUSH 型・PULL 型の二方向からアプローチし、協力会社への巻き込みを進めていきました。

PUSH 型アプローチでは ANDPAD 利用度が低い方へ電話を掛け、運用の浸透を進めていきました。コールセンターのように問答集をメンバー同士で共有することで、ノウハウを蓄積しながら業務を行いました。

PULL 型アプローチでは「ANDPAD パトロール」と称して協力会社からチャットに届く質問に対して回答することで、協力会社の不安を取り除く試みを行いました。

③分業化していた施工管理業務の再整理

課を分けて分業化することで同じ作業が何度も繰り返されるという事態も発生していました。しかし、全社共通の方針であった「システムで今の業務を再現するのではなく、業務をシステムに合わせる」ことを実行することで業務の再整理が成され、社員 1 人 1 人の行動も変化していきました。

4. 今後の取り組み

ANDPAD をもとに着工から住宅完成までを一元管理することで、業務フローの DX 化を成し遂げた当社。社内では課を横断した「DX 推進室」を立ち上げ、社内にある「無理・無駄」を削減できないか、全社で考える機会を持つようにしています。

今後はこういった業務フローを DX 化するだけでなく、住宅の製造そのものに関してもイノベーションと DX 化を進めるべく、3D プリンターハウス事業にも力を入れています。3D プリンターを駆使して住宅づくりを行うことで、大幅なコスト削減だけでなく職人不足といった「住宅業界が抱える問題」にも具体的なソリューションを提供できるよう、日々挑戦してまいります。

5. 業績に与える影響

2024 年 6 月期の業績予想に与える影響は軽微と考えます。今後開示すべき事項が生じた場合は、速やかにお知らせいたします。

以上